

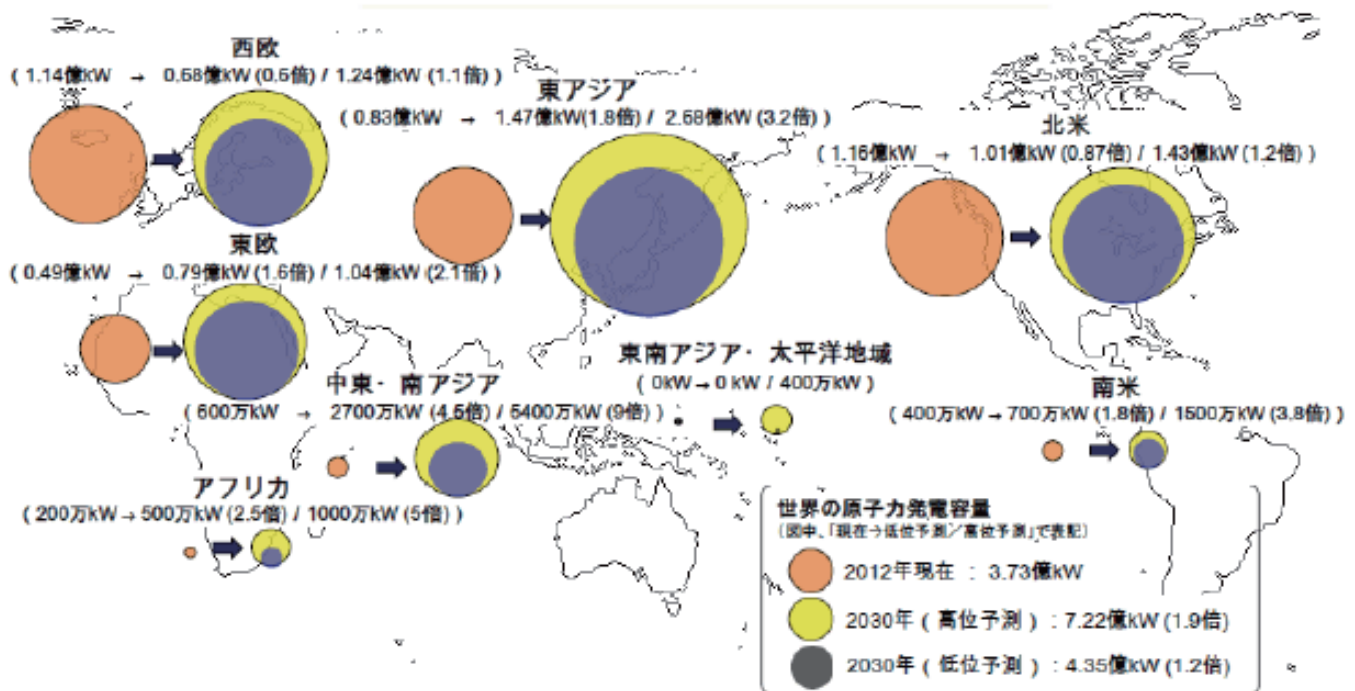
エネルギー白書から

シリーズ第二部 「3・11及びその前後から顕在化してきた課題」

15 急激なエネルギー需要の伸び、地球温暖化問題への対応から世界的には原子力利用は拡大

経済成長の著しいアジアを中心に、急激なエネルギー需要の伸び、地球温暖化問題への対応、化石燃料の主要な供給地域である中東・北アフリカ地域の政情不安、化石燃料価格の不安定化等を背景に、エネルギー安全保障の観点から、化石燃料を補完する有力なエネルギー源として、原子力の利用を拡大しようとする動きが見られます。国際原子力機関(IAEA)による試算では、世界の原子力発電容量は、2012年の3.73億kWから、2030年には低位予測4.35億kW(約17%増)、高位予測7.22億kW(約94%増)となっています。東アジアについてみると、2012年の0.83億kWから、2030年には低位予測1.47億kW(約77%増)、高位予測2.68億kW(約223%増)であり、世界全体の増加率を大きく上回っています。

2030年における世界各国の原子力発電の見通し (IAEA試算)



(注) 原子力発電容量は、IAEAの予測 (2013年8月)

(出典) IAEA 「Energy, Electricity and Nuclear Power Estimates for the Period up to 2050, 2013 Edition」を基に作成